

## 序 研究の目的と体制

弥生いこいの広場隣接地（以下「弥生リゾート跡地」という。）は、総合保養地域整備法（通称、リゾート法。以下「リゾート法」という。）に基づくスキー場計画の頓挫後、弘前市が「岩木山弥生地区整備計画」に基づき、「自然体験型拠点施設」用地として取得したものの、整備を中止して現在に至っている。

この弥生リゾート跡地の今後のあり方について、弘前市では弘前市議会等で以下の通り「基本的な考え方」を示している。

### 【基本的な考え方（検討の方向性）】

- (1) 広く市民の意見を聴いて、今後の方向を定めていく
- (2) 自然に近い姿を念頭に置きながら検討を進める
- (3) 大型箱物施設を中心とした計画とはしない
- (4) 防災や利用上の安全面も考慮し整備の方向性を定めていく

また、これまでの当該地区の整備計画を巡る経緯を踏まえると、今後の整備の方向性の検討にあたっては、上記（1）のとおり広く市民の意見を聴くための「市民懇談会」などの設置の検討も必要となるが、運営にあたっては、外部の視点・手法を取り入れて、手法の透明性も確保することとしたい。従って、基本的な考え方の第5番目として以下も掲げることとする。

- (5) 懇談会などの運営にあたっては、大学等、外部のノウハウ・手法を活用することを検討する

弘前市は、この「基本的な考え方」に基づき、弥生リゾート跡地をめぐる現況等の事実の整理及び市民などの意見を集約する透明性の高い手法の開発等を行うことを目的として、大学の知識や手法を活用するため弘前大学人文学部との共同研究に着手した。

本報告書は、この跡地をめぐる経緯や前提条件をあらためて洗い出し、整理したものである。本研究の総括は弘前大学人文学部社会学研究室が担当した。以下、跡地利用について、これを市民や地域社会の参加と連携のもと推進するための方策として提言するものである。

### 1. 研究体制

弘前大学人文学部社会学研究室が主体となり、地域共同研究センターとともに、複数の教員の協力のもと、調査研究にあたった。また調査は、弘前市企画部企画課【研究資料の提供】、弘前市建設部土木課【防災】、弘前市教育委員会船沢公民館【地域ネットワーク】（以

下それぞれ「市企画課」「市土木課」「船沢公民館」という。)との共同で行った。とくに船沢公民館からは、地元から現地についての生活に基づいた情報を提供してもらい、その得られた情報を弘前市・弘前大学の共同研究の成果に十分に盛り込むことを目論んだ。できれば利活用の中心的な主体を地元で形成してもらい、市とこの地元主体との連携・パートナーシップで利活用を進めていくことが理想的との考えもあり、中央公民館との連携を通じて、2度地域住民への報告会・意見交換会(平成19年8月21日、平成20年1月31日、ともに於船沢公民館)の機会も持った。

## 2. 調査内容

調査は大きく「①事業跡地の概要と、地元となる船沢地区の文化・社会・歴史的条件調査(地元地域社会の潜在力・資源発掘調査として)」、「②弥生リゾート跡地の利活用に関するハード・ソフト両面の前提条件調査」の二つに分けて行った。

### ①事業跡地の概要と、地元となる船沢地区の文化・社会・歴史的条件調査

本調査は弘前大学社会学研究室が、船沢公民館とともに行った。

平成19年5月から7月にかけて、船沢公民館を通じて数回の聞き取り(関係町会、町会連合会、公民館運営委員、郷土史関係者)。津軽森林管理署で国有林の現況について聞き取り。また8月21日に学生たちの中間報告会(船沢公民館)を開催して中間報告を行った。

その後さらに聞き取り調査、現地調査を継続し、平成20年4月には補足調査を行って、いったん調査事業を終えた(日程は後述)。

### ②弥生リゾート跡地の利活用に関するハード・ソフト両面の前提条件調査

ここでは次の5つのテーマを掲げ、前提条件を探ることとした。

テーマ・・・参加者：アドバイザー、研究協力者など(敬称など略)

1. 現地林野の検討・・・津軽森林管理署
2. 防災に関する検討・・・農学生命科学部・檜垣大助、市土木課
3. 生物の面についての検討・・・農学生命科学部・東信行、岩木山を考える会
4. グリーンツーリズム・エコツーリズム・自然体験学習を行う場としての検討・・・  
農学生命科学部・藤崎浩幸、岩木山自然学校
5. 地域社会に関する検討・・・人文学部・山下祐介、船沢公民館

調査体制のうち、全体の調整については市企画課が担当し、各アドバイザーへの資料提供を行い、また弘前大学内の専門教員へのコーディネートは地域共同研究センターが行った。

なお本研究ではさらに、「NPOと市民活動、パートナーシップの可能性」(教育学部・北原啓司、人文学部・山下祐介)を第6のテーマとしていたが、第5章で提言する今後の懇談会上でより入念に議論されるべきものと考えられたので、この点の具体的な検討は今回

は簡略にとどめ、協同・パートナーシップを前提として、1.～5.の点を整理するというかたちにとどめた。

①が過去を振り返るものとすれば、②は「これから」の可能性を検討するものである。植生、防災、グリーンツーリズム・エコツーリズム、自然保護に関する各テーマごとの専門家からの意見収集は、それぞれ船沢公民館とともに現地視察を行い、その後意見交換を行うという形で進めた。またその結果をもとに各専門家にはレポートもお願いした。以上を通じて行った現地見学・意見交換会の経過は以下の通り。

#### 弘前大学と船沢公民館との共同研究記録

##### ★ 第1回共同研究記録

日時：平成19年5月17日（木）午後2時～6時

テーマ：船沢地域の歴史とリゾートの経緯についての聞き取り調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民3名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

##### ★ 第2回共同研究記録

日時：平成19年6月7日（木）午後7時～10時

テーマ：船沢地域の歴史とリゾートの経緯についての聞き取り調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民3名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）  
中央公民館（庄司学習支援係長、花田主事）

##### ★ 第3回共同研究記録

日時：平成19年6月14日（木）午後7時～10時

テーマ：船沢地域の歴史とリゾートの経緯についての聞き取り調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民3名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

##### ★ 第4回共同研究記録

日時：平成19年6月28日（木）午後3時～8時

テーマ：弥生跡地実地調査及び聞き取り調査

会場：弥生地区、船沢公民館

参加者：地域住民4名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

- ★ 第5回共同研究記録  
日時：平成19年7月5日（木）午後3時～5時  
テーマ：聞き取り調査  
会場：船沢公民館  
参加者：地域住民数名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）
  
- ★ 第6回共同研究記録  
日時：平成19年7月19日（木）午後2時～4時  
テーマ：実習報告会  
会場：弘前大学  
参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名、他のゼミも合同）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）
  
- ★ 第7回共同研究記録  
日時：平成19年8月21日（火）午後1時30分～3時30分  
テーマ：実習報告会「船沢・弥生調査中間報告～弥生リゾート跡地の返還とこれから  
について」  
会場：船沢公民館  
参加者：地域住民17名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生4名）  
弘前学院大学社会教育実習生4名  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員、高谷少年教育指導員、工藤  
女性教育指導員、佐藤青年教育指導員）  
中央公民館（庄司学習支援係長、花田主事）
  
- ★ 第8回共同研究記録  
日時：平成19年10月18日（木）午後1時30分～9時  
テーマ：折笠町会地図調査  
会場：折笠町民会館、船沢公民館  
参加者：地域住民1名、弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生4名）  
船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）
  
- ★ 第9回共同研究記録  
日時：平成19年10月26日（金）午前10時30分～12時  
テーマ：今後の打ち合わせ  
会場：弘前大学  
参加者：弘前大学（農学生命科学部藤崎准教授、人文学部山下准教授、人文学部  
学生4名）

船沢公民館（前田館長）

中央公民館（庄司学習支援係長、花田主事）

★ 第10回共同研究記録

日時：平成19年11月1日（木）午後3時～午後9時

テーマ：現地調査（堰・水路系について）

会場：船沢公民館

参加者：地域住民1名

弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生4名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第11回共同研究記録

日時：平成19年11月6日（火）午前8時30分～12時

テーマ：今後の打ち合わせ

会場：弘前大学

参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、農学生命科学部東准教授、人文学部学生2名）

市企画課福田総括主査

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第12回共同研究記録

日時：平成19年11月8日（木）午後1時～午後9時

テーマ：現地調査（弥生リゾート跡地）

会場：弥生いこいの広場及び船沢公民館

参加者：地域住民2名

弘前大学（人文学部山下准教授、農学生命科学部藤崎准教授、人文学部学生4名）

NPO法人岩木山自然学校高田校長

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第13回共同研究記録

日時：平成19年11月12日（月）午前10時～12時

テーマ：現地再調査（堰・水路系について）

会場：船沢公民館

参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生2名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第14回共同研究記録

日時：平成19年11月15日（木）午後3時～午後9時

テーマ：聞き取り調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民2名

弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生3名）

中央公民館（花田主事）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第15回共同研究記録

日時：平成19年11月19日（月）午後1時～午後5時

テーマ：船沢地域調査

会場：船沢公民館

参加者：弘前大学（農学生命科学部藤崎准教授、農学生命科学部学生4名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第16回共同研究記録

日時：平成19年11月29日（木）午前9時～午後5時

テーマ：弥生リゾート跡地調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民1名

弘前大学（人文学部山下准教授、農学生命科学部檜垣教授、人文学部  
学生4名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

中央公民館（庄司学習支援係長、花田主事）

市企画課（福田総括主査）、市土木課2名

★ 第17回共同研究記録

日時：平成19年11月29日（月）午後6時～午後9時

テーマ：船沢地域調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民3名

弘前大学（人文学部山下准教授、農学生命科学部藤崎准教授、人文学部  
学生2名、農学生命科学部学生1名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第18回共同研究記録

日時：平成20年1月17日（木）午後3時～午後9時

テーマ：聞き取り調査（岩木山神社との関わり）

会場：岩木山神社

参加者：岩木山神社禰宜 須藤廣志氏

弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生3名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第19回共同研究記録

日時：平成20年1月18日（金）午前10時～午後9時

①テーマ：聞き取り調査（岩木山麓の自然について）

会場：岩木さんぽ館

参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生3名）

市岩木総合支所観光建設課（笹主幹）

②テーマ：聞き取り調査（弥生いこいの広場実態について）

会場：市公園緑地課

参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生3名）

市公園緑地課（加藤課長、中川主事）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第20回共同研究記録

日時：平成20年1月31日（木）午後6時30分～午後10時

テーマ：講演及び討論会（これからの農村のあり方）

会場：船沢公民館

参加者：地域住民（船沢青年部）12名

弘前大学（人文学部山下准教授、農学生命科学部藤崎准教授、人文学部学生4名、農学生命科学部学生4名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

中央公民館（庄司学習支援係長、花田主事）

★ 第21回共同研究記録

日時：平成20年4月10日（木）午前9時～午後10時

テーマ：今後の打合せ

会場：船沢公民館

参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生4名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

中央公民館（庄司学習支援係長）

★ 第22回共同研究記録

日時：平成20年4月17日（木）午後7時～午後10時

テーマ：聞き取り再調査

会場：船沢公民館

参加者：地域住民4名

弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生7名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第23回共同研究記録

日時：平成20年4月19日（土）午後7時～午後10時

テーマ：報告書再確認

会場：船沢公民館

参加者：地域住民2名

弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 第24回共同研究記録

日時：平成20年4月24日（木）午後3時～午後10時

テーマ：現地調査（上弥生、弥生いこいの広場）

会場：船沢公民館

参加者：地域住民6名

弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生8名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

★ 報告書打合せ、調査確認作業

平成20年10月16日（木） 15:00～17:00

会場：中央公民館

参加者：弘前大学（人文学部山下准教授、人文学部学生5名）

船沢公民館（前田館長、久保田社会教育指導員）

中央公民館（庄司学習支援係長、花田主事）

市公園緑地課（福田主幹）

市企画課（鈴木課長補佐、五十嵐総括主幹、金川主事）

またこれらに加えて、さらに隣接する弥生いこいの広場などの施設や、弥生・上弥生地区の状況把握、周辺地域の管理団体への調査の他、リゾート開発への市民の反対運動の経緯や今後の関わり方についても調査を実施して、多様な主体の連携可能性を探るものを目指した。

### 3. 本報告書の構成

まず第1章では、ごく簡単に、弥生リゾート跡地問題の経緯を紹介する。その上で、第2章では、跡地の変遷について、その歴史を明治から現在まで追っていく。リゾートや大型児童館構想など、市や県による当地域の開発の論理の変遷を確認することはもとより、そもそも、この土地をめぐる100年にわたる地元地域における意味づけの変化を十分に理解するべく、この土地の歴史を明治期まで遡って確認しておきたい。

第3章では、とくに当地域の開発に関する市民団体側の運動の論理を取り上げる。当地をめぐる市民運動が何に反対していたのか明らかにすることは、今後の跡地の利活用の前提の一つになる。

第4章では以上をふまえて、利活用のための前提条件を各方面から検討し、第5章ではこれらをまとめる形で、今後の利活用法を議論していくための仕組みについて課題の整理と提言を行う。

弥生いこいの広場隣接地（弥生リゾート跡地）全体図

